

第3回 社会連帯～絆～を考える集い

東日本大震災で被災あわれた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

いまこそ、人と人との助けあい、支えあいながら、温かい地域社会をつくることが求められています。

映画上映、記念講演を通じて、それぞれが生きる地域にある《絆》や、現代に必要な社会連帯の活動を考え合ひましょう。

今回で”集い”も3回目を迎えます。

みなさまの参加をお待ちしております。



映画

『アンダンテ ～稲の旋律～』

それぞれの生き方の中で、転機に立つ現代人の
葛藤と再生を描く、最大の問題作！

原作：旭爪あかね 監督：金田敬 企画・製作：桂壮三郎 脚本：山田耕大
出演：新妻聖子 寛利夫 秋本奈緒美 宇津宮雅代 村野武範
上田耕一 正司照枝 三上真史 紗綾 中条きよし 松方弘樹

●とき **7月23日(土) 13:00～16:30 (12:30開場)**

●ところ **さいたま市産業文化センターホール** JR 埼京線
与野本町駅徒歩 10 分

●プログラム **第1部 記念講演「なぜ今、社会連帯が求められるのか」**
講師 鈴木雄一氏（一般社団法人日本社会連帯機構副代表）

第2部 映画上映『アンダンテ～稲の旋律～』
上映前に原作者・旭爪あかねさんの舞台あいさつがございます

●参加費 前売 1,000 円(当日 1,200 円) ●プレイガイド 浦和観光案内所・さいたま新都心観光案内所

●主催・お問合せ 一般社団法人 日本社会連帯機構 東関東地方委員会
☎048-844-0085 FAX048-844-0086

●後援 埼玉県 さいたま市 さいたま市教育委員会 埼玉県農業協同組合中央会

アンダンテ～稲の旋律～

今、混沌とする時代に、心が洗われる映画が誕生した。

社会に適応出来ず対人恐怖症と引きこもりから抜け出し、新たな自立の道を懸命に模索する主人公千華。そして厳しい農業の傍ら食と農業問題に独自の哲学を持ち、土と共に生きる晋平。今日、登校拒否や引きこもりなど、心の病は現代日本の深刻な問題として見えてくる。本作の『アンダンテ』とは音楽用語で「歩く速度で、ゆっくりと」を意味し、原作者である旭爪あかねは、自らの引きこもり生活の体験を主人公千華に反映させている。

原作：旭爪あかね Hinotsume Akane

千華やかつての自分と同じように苦しんでいる人たちに、「悩んだり、苦しんでいるのはあなただけじゃないよ」と伝えたい、という気持ちで、この小説を書きました。泥から生まれる美しい稲の海が、銀幕一面に揺れている様子を想像します。



そのなかを、ときには立ち止まったり後退もしながら、ゆっくりとゆっくり歩きはじめる千華の心が、観ていてくださる方々の胸に届きますように・・・



♪曲がつて植えようが
転んで植えようが、
稲はまっすぐ
上を向いて
伸びるんだよ



物語

映画の主人公「藪崎千華」は、母親の強い希望で幼い頃から音楽の道を歩むが、音楽社会の競争は厳しく次第に自身を失っていく。やがて自分自身をも見失い登校拒否となり、大学中退を余儀なくされる。大学中退後、アルバイト生活に入るが、職場での人間関係がうまくつくれず、仕事を転々とする生活を繰り返し続ける。そしてとうとう、一日中家に閉じこもるようになり、日毎の両親とのいざこざも絶えなくなってしまう。

そんな自分を思いつめた千華は、千葉県の水田へ、「誰か私を助けてください。」と書いた紙切れをペットボトルに詰め、「心のSOS」として置いてくる。暫くして、この水田の持ち主でありペットボトルを拾った広瀬晋平から手紙が届く。その手紙に内容は真剣に千華のSOSに応えようとしていた。

千華は、自分はどうのような人間か、どうして他人と会うのが怖いのか、長い長い手紙を晋平に送った。こうして始まった千華と晋平の交流は、千華の引きこもり生活を徐々に変化させていくのだが・・・・・・！

